

2022年5月22日
総会資料

一般社団法人えんがお

2022年度(令和4年度)事業計画書

期間：2022年4月1日～2023年3月31日



一般社団法人えんがお
〒324-0051 栃木県大田原市山の手1-9-10
TEL 0287339110 E-mail engawa.smile@gmail.com
URL <https://www.engawa-smile.org>

1.2022年度の組織運営計画について

1.バリューとビジョンとミッションの確認

バリュー —法人の抱く組織的価値観—

- ・人とのつながりの力で、あらゆる社会課題と向き合う

ビジョン —目指す社会像—

「誰もが人とのつながりを感じられる社会」

ミッション —社会的使命—

- ・高齢者の孤立化の予防と解消ができる地域の仕組みをつくり、実践していく
- ・若者の存在を受け入れ、共に成長できる場をつくる

2.基本方針

ミッションの達成を図るため、以下の事項を2022年度の基本方針とする

①「人とのつながりが希薄な高齢者」の掘り起こしと、地域住民との接点の増加

一般社団法人えんがおは、今後も子ども事業などさらに多くの領域への挑戦を進めていく。一方で、法人の価値として最も大切にしているものは、あくまでも「高齢者の孤立の予防と解消」である。

今季は、改めて対応可能な範囲における孤立高齢者の掘り起こしを進めていく。また、空き家活用を進めるにあたって、これまで以上にこまめに近隣住民にも情報を届けていく。加えて、イベントや地域食堂などにも近隣住民を多く誘うなどして、接点を増やしていき、更なる信頼関係の構築をすすめ、組織としての足元を固めていく。

②法令を遵守し、かつPDCAが日常的に回る、新たな組織づくり

2022年度より、新卒の職員が一名常勤で加入する。また、今後もパート・アルバイト職員の増加が予想される。雇用環境などに関する法令を遵守した組織づくりを進めていく。

また、今後のあらゆる挑戦に向け、チームとしても個々人としても、生じた課題に対して「なぜ起きたのか」「どういく対策をするのか」の思考習慣を確立し、PDCAが日常的に周り、日々成長する組織にしていく。そのための、日常的記録整備や問題が起きた際の対策方法の確立、ミーティング時間の確保などを進めていく。

③「現場から社会を変える」組織の基盤づくり

一般社団法人えんがおは、事業内容が多岐に渡り、「何をやっている組織か」が見えにくい性質がある。日頃のイベント情報の発信・現場の景色の発信に加えて、法人の中身がより見えるように様々な媒体を活用した発信をしていく。また、メディアとの連携も積極的に行い、社会に対する影響力を身につけ、「現場から社会を変える」組織を目指す。

3.行動指針

- ・目の前の人を笑顔にする
- ・求められていることを最大限に楽しく実行する

スタッフ・サポーターに関しては、この二点を通過していれば個々の判断で主体的に行動してもらう。

II.2022年度事業計画（2022年4月～2023年3月）

1.事業計画

事業の種類(定款)	項目	事業名	事業内容・名称(案)	備考 (時期・ 頻度など)	昨年度実績(実 人数)	受益者収益 及び範囲の 目標値 (実人数)
生活支援事業	継続	制度外サービス	制度対象外の生活支援	通年	150件 (28世帯)	400件 (40世帯)
	新規	制度外サービス	対象区域外への出張	毎週木曜		96件(9世帯)
世代間交流事業	継続	世代間交流イベント	多世代交流イベントの実施	月1回	0回0人	6回90人
	継続	みんなの家	1階：サロン活動	通年	760人	1500人
	継続		2階：学生向け勉強スペース	通年	2297人	3000人
	新規		フリースクール事業	週1回		登録数7人
	新規		親子向けイベント	月1回		70家族
	新規		放課後児童健全育成事業	週6日 (準備)		
活動促進	継続	講演会	介護予防意識 地域作り促進	依頼時		50件 (3000人)
		学生活動体験者	学生の活動体験受け入れ	通年	延600人	延1000人
ネットワーク・コ ミュニティ形成事 業	継続	えんがおベンチプロ ジェクト	市内ベンチの有効活用及び、 新規ベンチの設置	通年	10脚 7枚	15脚 50枚
	継続	県北若者ラボ	地域活動についての勉強会・ 会員交流会	月一回	5回 80人	11回 120人
	継続	えんがおハウス	遠方から活動体験に来る人 の無料宿泊所	通年	70人	240人
	継続	えんがお荘	若者・学生向けソーシャル シェアハウス	通年	入居者数 5人	入居者数 5人
	継続	SHARE PLACE てのかご	地域食堂	通年	8回 (高齢者数24 人)	20回 (高齢者数 60人)
			シェア店舗	通年	8店舗	50店舗
			レンタルオフィス	通年	2企業	3企業
障害福祉サービス 事業	継続	障がい者向けグルー プホーム	共同生活援助	通年	10人	10人
情報発信・出版事 業	継続	情報発信	WEBサイト、 SNS(facebook,twitter,Inst agram)	通年	3160フォロー	7000フォロ ー
	継続		えんがお通信	隔月	年4回	年4回

2.2022年度の事業スケジュールと概要

1.2022年度挑戦内容

①フリースクール事業

背景：近年、えんがおのサロンスペースに対して、不登校生の相談が増加。現在、中学生1名、高校生1名がほぼ毎日えんがおに通っている。大田原市内にフリースクールがないことや、不登校性が急増していることから、今後も必要性が高まることが予想される。

よって、えんがおのサロンスペースを改修し、2名のスタッフを配置してフリースクール事業を実施する。

概要：開催頻度は週に一回。10:00-14:00にスタッフと遊んだり、作業をしたり、昼食を作って地域の人と食べたりする。フリースクールとしての頻度は少ないものの、サロンスペースに馴染んだ学生はその後好きなタイミングで来れるため、日常的に遊びに来れるサロンスペースを軸にしていく。費用は月1万円程度を想定。収入は利用料に加え、補助金・会費で補填。

スケジュール：

4月ー6月 改修（事務所スペース・フリースペース）・広報

6月 フリースクール開設。

②親子向け事業

背景：現代の子育ては、以前に比べ孤立度が高く、地域高齢者などから支えられることでの相乗効果が大きく見込める。えんがおが目指す「ごちゃまぜの地域づくり」に向け、子どもの入口を創出し、高齢者とつなげていく。

概要：家庭教育の実施者である保育士と連携し、共同主催の形で親子で参加できるイベントを月に一回実施する。参加費収入は、共同主催者と折半。2022年度から子ども事業を行い、2023年度開設の学童事業へとつなげていく。

③放課後児童健全育成事業（学童保育）の準備

背景：えんがおの目指す、全世代が日常的に関わる「ごちゃまぜの地域づくり」に向けて、子ども世代を対象とした制度事業を開設し、高齢者とのつながりを作っていく。

大田原市には、現在学童保育が不足している。また、子どもや子育て世代と高齢者との関わりも社会的に少なくなっていることから、高齢者やその他の世代と関わることのできる学童保育を開設する。

概要：現在「えんがお荘」としてシェアハウスを運営している木造平家を改修。学童保育を開設する。改修・申請などの準備を2022年度に行い、2023年4月から開設とする。

改修予算500万円。助成金もしくは融資。

Idea I : 屋根に登れる学童

- ・屋根の耐久性
- ・瓦は数年前に張り替え

奥に行かないための簡易ガード



クライミングネット
落下防止and昇降用

Idea II : 丸ごと遊べる学童

